

若林東一 わかばやし とういち 陸軍軍人。明治四十五年三月二十七日山梨縣西八代郡柴村生れ、昭和十八年一月十四日歿（九三―四三）。山梨縣立身延中學校、仙臺陸軍教導學校を経て、昭和十二年陸軍豫科士官學校、十四年陸軍士官學校卒。ガダルカナルで戦死。陸士在學中より書き繼いだる日記、詩篇、短歌、俳句の遺稿多數を残したといふ。へ新羅より渡りし人らみやりの徳をたへし那須の石塚へ、へ輪と舟りて座間の寒月仰ぎけりへはその作。

歿後、少國民版傳記『若林東一中隊長』(昭和十九年十月十日毎日新聞社編刊)が出版せられた。また報道班員による現地戦を描いたものゝ、瀧田憲次著『圖南挺進軍―ガダルカナル・ブナの血戦』(昭和十八年六月十日大佑書房)、齋藤勝美著『ルンガ河―ガダルカナル島血戦記』(昭和十八年九月五日鱗書房)、柏木啓一著『ガダルカナル敢闘記』(昭和十九年一月二十日敢闘書房)、藤田清雄著『後』(續くま信ず)(若林大尉血戦録)』(昭和十九年三月十日文松堂書店)、新田義夫著『ガダルカナル從軍記』(昭和十九年十月十八日富士山房)、森川賢司著『見晴臺の華―ガダルカナル島血戦記』(昭和二十年四月一日日本報道社)等がある。

